



# News Release

2021年7月1日

株式会社九州フィナンシャルグループ

## 九州フィナンシャルグループ本社ビル（建物名称：KFGビル）の竣工について

九州フィナンシャルグループ（社長 笠原 慶久）は、本社ビル（建物名称：KFGビル）を竣工しますので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 建設目的

グループのさらなる総合力の発揮による経営理念の実現を目指し、本社ビルを建設しております。

- (1) 当社及びグループ会社の未来を見据え、効率的な業務運営と組織力を十分に発揮できる本社ビルとします。
- (2) 働き方改革の推進やワークライフバランスの向上に努め、柔軟な働き方を実現するために、創造性に富み、健康で快適なオフィス環境を創造します。
- (3) 持続的な地域経済の発展及び社会づくりに貢献する取り組みを推進し、環境に配慮した本社ビルとします。
- (4) 熊本地震の経験を踏まえ、大規模災害発生時の安全性向上及び業務継続性の観点から防災性の強化を図るとともに、熊本地震からの創造的復興に資する本社ビルとします。

#### 2. 建物概要

建物名称	KFGビル
住 所	熊本市西区春日一丁目12番3号
敷地面積	3,011.42 m <sup>2</sup> ( 910.95 坪)
建築面積	2,311.97 m <sup>2</sup> ( 699.37 坪)
延べ面積	16,670.46 m <sup>2</sup> (5,042.81 坪)
階 数	地上11階
構 造	鉄骨造（制震構造）

※建物詳細につきましては別紙ご参照ください



Kyushu FG

# News Release

## 3. フロア構成

9～11階	九州フィナンシャルグループ執務室 等
8階	九州FG証券本社・熊本支店 等
7階	セミナールーム・食堂・スカイテラス（屋上庭園）
6階	九州デジタルソリューションズ、グループ会社執務室 等
3～5階	貸事務所
2階	九州フィナンシャルグループエントランス（総合受付）、貸事務所 等
1階	グループ会社店舗 等

## 4. 竣工予定日（竣工式予定日）

2021年9月16日（木）

※当社及びグループ会社の移転後、12月上旬にセレモニーを予定しており、詳細は改めてお知らせいたします。また、竣工式の撮影等については別途お知らせいたします。

**【本件に関するお問合せ先】**

九州フィナンシャルグループ 人事・総務部 吉富  
TEL 096-326-5588

(1) 建物外観イメージ



(市電通り側)

<外観コンセプト>

地域に根ざし成長を続ける大樹のシルエット



(新幹線高架側)

(2) スカイテラスイメージ (7階屋上庭園)





# News Release

## (3) 特徴

### 【景観への配慮・立地環境】

- ・外観は、当社のシンボルマークデザインコンセプトの「大樹」をモチーフに、庇による影やガラス面への空・緑等の周辺環境の映り込み、外装ガラスの雁行や庇の形状による枝葉の広がりをイメージさせることにより、「大樹」のシルエットを表現。
- ・1階の公道沿いには、シンボルツリーとして、熊本・鹿児島両県の県木であるクスノキをはじめとした植栽や水景施設を施し、建物外観とともに、景観やまちづくりに配慮。
- ・熊本駅や関係機関に近い好立地を活かし、当社グループのさらなる効率的な業務運営を実現。

### 【執務環境・セキュリティ】

- ・柔軟な働き方を実現し、創造性に富み、健康で快適なオフィス環境とするため、ICT設備やグループ間ネットワークの充実を図るとともに、フリーアドレスの導入、コミュニケーションスペースやリフレッシュコーナーの配置、ペーパーレスを一層推進。
- ・最長19mのロングスパン構造、天井高さ2.95m、グリッド型システム天井・0Aフロアの採用によるフレキシビリティの高い快適な執務空間（建物の高寿命化も実現）。
- ・出入口にはフラッパーゲートやカードリーダーを配置し、各所に監視カメラ、センサーを配置することで高度なセキュリティを確保。

### 【環境への配慮】

- ・熊本の強い日射を遮りながら断熱性を高めるダブルスキンやLow-Eガラスの採用。
- ・空調エネルギー使用を低減させる自然通風システムの採用。LED照明・高効率機器の採用。
- ・建物中央部にエコボイド（吹き抜け空間）を設置し、自然の光や風を積極的に活用。
- ・内装材には、熊本・鹿児島両県の県産木材を各所に積極的に採用。
- ・1階にドライミストや植栽を施すとともに、7階には屋上緑化（スカイテラス）を整備。  
（設計完了時点で建築物環境配慮制度「CASBEE 熊本」においてSランク（最高ランク）評価）

### 【業務継続（BCP）】

- ・熊本地震の経験を踏まえ、各所に制振装置を設置し、地震力を吸収、揺れを低減し大地震時にも機能保持が可能な高性能制震構造を採用（国土交通省基準I類（最高グレード）相当）。
- ・非常時における電源供給の二重化（2回線受電）や72時間の電力供給を想定した非常用発電機の設置。
- ・熊本市統合型ハザードマップを踏まえ、1階の全ての出入口に止水板等を設置するほか、各種主要設備を2階以上に設置。
- ・インフラ途絶後72時間の利用を想定した受水槽・排水槽の設置。井戸の整備。
- ・大規模災害時に熊本駅周辺で帰宅困難者が発生した際の受入施設として、開業後、熊本市と協定を締結する予定。

以上